

までの自分を振り返ってみて恥ずかしかったのと、大変考えさせられました。二日目は、動の日という事で一日ハイキングが予定されて各班ごとに分けられ行われました。最初は歌やゲームをしながら登っていたのですが、登って行くにしたがって口数が減り日頃の運動不足を痛感させられました。しかし新鮮な山の空気や紅葉、その様な心和むところでの昼食、日常の事を忘れて楽しむ事ができ気持ちをリフレッシュできました。ただ残念だったのは頂上付近が霧に包まれていたため見晴らしが悪かったのと、下山の終わりあたりで雨に降られてずぶ濡れになったのが残念でした。その後は宿舎に戻ってグループ別野外炊飯がありこの頃になると苦楽を共にしたせいか、見事なチームワークで野菜炒めとカレーライスを作り上げました。味の方は……大変いい思い出になりました。最後の日は、終の日という事でそれぞれ各人の感想文発表が行われました。どれもすばらしい感想で、同じ三日間を過ごしていても感じ方や考え方、目的意識などまだまだ自分の未熟さを感じさせられた発表会でした。その後、閉講式が無事終わり別れ際あっちこっちで三日間の内に親しくなった人達と連絡先の交換をして別れました。帰りのタクシーの中で、「もう二度と会えない人もいただろうから、もっと大勢の人交流を深めておけばよかった。」と出会いの大切さを感じました。この度学ばせて頂いた多くのことを今後、仕事や私生活に生かしていきたいと思います。最後に、こういう機会をくださった方達に感謝したいです。ありがとうございました。

（医）嵐陽会 町永 渉さん

10月4日から6日までの3日間、妙高少年の家で行われた、ライラ研修に参加させていただきました。

研修のテーマである将来の指導者育成という話題をどこまで達成できたかは自信がありませんが、自分にとっては有意義な時間だったと思います。

研修には、新潟県と群馬県から研修生だけでも300名以上の参加がありました。

色々な工場の方の集まりで、同じ物を見たり、同じ話を聞いたりしても様々な感じ方があることを今さらながら感じさせられました。

又、初日の選択講演会の中で、川瀬一雄のお話の中で、「美しい花を見て、その根を思う者は少ない」という言葉を紹介して頂きました。

物事の華やかな面ばかり見て、それを支えているものの存在に気づかない人が多いというものでしたが、自分もそのような人間でしたので、真実を見る目を養っていこうと考えました。

今後の人生において、この研修で得たものを生かしていきたいと思います。

最後にこのような素晴らしい機会を与えて下さった皆様に、お礼を申し上げたいと思います。有難うございました。

10月のお祝い：

誕生祝い

結婚記念日

平松利朗さん 1日

外山真智代さん 1日

山崎勲・八重子さん 1日

ニコニコボックス：

8日現在累計 303,000円

今井克義君 秋です。柿の季節です。柿は甘柿に限ります。ガバッと噛じると黒いゴマがこぼれる程の柿は、最近、身近に少なくなりました。皆様のお家にありましたらぜひ教えて下さい。いただきにまいります。

佐藤義英君 ライラ研修参加方々、及び吉田10周年参加の方々大変御苦勞様でした。又先日は大野さんの10周年パーティー大変お目出とうございました。当日幹事報告いたしましたせんこう代の超過分は結局大野さんにあまえることにいたしました。大野さんすみませんクラブを代表して!!

平松利朗君 おゝ乃さんの10周年では大変お世話になりました。益々のご発展をお祈り申し上げます。

外山晴一君 石川先生ライラご苦勞様でした。

梨本建夫君 先日の日曜日、佐渡の両津でアームレスリング新潟県大会が行われました。そこで75kg未満級で次男坊の篤史が優勝をさせていただきました。これも健康で生きられ、又平和な日本であればこそその幸せとかみしめております。ありがとうございました。

堀川正幸君 吉田クラブの10周年記念式典とライラ研修の出席ご苦勞様でした。坂井さん、田口さん、町永さん研修報告よろしくをお願いします。

石川勝行君 佐藤文夫さんとライラ（妙高）に行って来ました。朝6時に起床し山も登り（ハイキング）、夜はタッブリ酒も飲みました。以上

大野新吉君 10月1日、3日の「おゝ乃お陰様で10周年感謝の小宴」にご臨席下さいまして誠に有難うございました。又北鼓隊の皆様方よりすばらしい太鼓のひびきで一段と盛り上げて頂き誠に有難うございました。

西村護君 おゝ乃さんの10周年、大変お世話様でした。北鼓隊の皆様もご苦勞様でした。おゝ乃様のますますのご発展をお祈りいたします。

山崎勲君

羽賀一夫君 金井清一クラシックの予選を通過しましたしこの日曜の月例で74点のベスグロ3位になりました。この北ロータリーにも手本となるゴルファーがいる事をお忘れなく。

委員会報告：

・親睦活動委員会 夜例会の件

・米山奨学委員会 15日の例会について

・ロータリー財団委員会 11／15の例会の件

・出席委員会 ガバナー公式訪問100%例会について

例会出席率向上について

・スマイルBOX委員会 9月BOXコメント賞は今井古義会員に決定

第16回ライラ研修会感想文

ライラ委員会副委員長 石川勝行会員

ライラ研修の出発前は、気が重かった。その理由は次の通りです。

①ライラとはいったい何なのか、かつ事前にロータリアンから、厳しい状況を聞かされていたため。

②北ロータリアンより坂井英樹、田口和彦、町永渉さんの3名の研修生が参加するがロータリアンとしてきちんと対応できるのか。

③研修という以上、朝早くから厳しく鍛えられ自由時間はないのではないのか。

④会場が少年自然の家なので、酒は一切禁止ではないのか。

⑤野外研修の火打山又は藤巻山の登山は、体力的に大丈夫なのか。

会場の国立妙高少年自然の家に到着して、その不安は一掃されました。研修施設としては新しく、又参加している研修生及びロータリアンの表情が実に生き生きしていることでした。私にとって、佐藤文夫さん、南ロータリーの佐藤嘉男さん、三条ロータリーの佐藤吉平さん、丸山行彦さん、群馬県のロータリアンの方々に大変お世話になりました。連日、研修終了後談話室での酒宴は貴重な経験をさせていただきました。佐藤文夫さんが4ダースのビール缶を担いで来られたときはこれからどうなるのかと思った程でした。

研修の目的はロータリアン青少年指導者養成が主で一日目の講演会、二日目の登山、野外炊飯、キャンプファイヤー等、三日目の講演会、感想文発表等と大変盛りたくさんでした。2560地区では、16回目で歴史も実績もあります。重要なことはロータリアンと青年が一緒になって寝起きを共にし活動し学ぶことです。若人と共に研究し、共に生活することに大きな意義があるのです。

今回の研修は、私は90%以上の満足度で戻ってきました。とりあえず山も登れました。朝早く起きられました。酒も飲みました。しかし、特に三日目の感想文発表が研修生にとって締めくくりとして有意義ではあったと思うし、ロータリアンにとっては若人の考え方、見方等がよく理解できたのではないのでしょうか。自分は若いと思っていましたが、随分差があるなと感じました。明日から心をもっと若くもって頑張ろうと意気込みが出てきました。

なお、今回のライラについて強いていえば、野外炊飯を初日にするとよいと思います。翌日からもっと親しみが増すのではないのでしょうか。酒については、ロータリアンは別にして、研修生は適度の酒量の制限又は時間制限が必要と思われました。

(株)フチオカ 坂井英樹さん

今回の研修でとてもつまらなかったことは、二回目の登山でした。いままで私は、弥彦山よりも高い



山へ登ったことがない。登山までのウォーミングアップすらしていなかったのである。コースとしては、約1日中歩く予定となっている。結果的には、紅葉している山々を見ながら楽しく登ることが出来た。道中、何度となく休憩を入れながら山頂をめざしていた。周りの人と冗談をかわしながらいたので、つかれを感じることも少なかった。案外自分で限界を作っていたことに気づく。

登りながら考えることもあった。職場や地域の中の自分、過去や将来の自分、何か夢でも見ているような気がした。私には、セッカチな所があり、これが短所でもある。山頂へ向けて一步一步踏みしめると、なんだかあせる必要はないんだと、山が教えているような気がした。目には見えない空気も、妖精のように、温かく接しているような気がした。他の人も同じことを考えている人もいた。

話は変わるが、野外炊飯でのカレーライスの味は今でも覚えている。うちの班のカレーは水気が多くまるでみそ汁のようだった。ジャガイモも少々かたかった。そんな中でも「うまいぞ」と言っておかわりをしていた。一つの飯をかこみながらふと気づくことがある。それは出会いである。ふだんは、接する人が決まっていて、それなりに職場や地域で生活をしている。知らない者同志縁あって、一つの飯をかこみ打ち解けている。こうした中でお互いを理解していくんだと感じた。何も難しく考えることはないんだと感じた。この先まだ多くの人との出会いがあることも期待しながら、今回の出会いを大切に、良い思い出にしたい。

(株)フチオカ 田口和彦さん



「二泊三日でライラ研修会に参加してください。」と我が社の社長から話があった時に、よくある新入社員の研修会を想像していたのでマイッタナと思っていました。ところが研修内容のプログラムを見ると、一日ハイキングコースやキャンプファイヤー、星座観賞会など研修会というより学校行事の林間学校みたいなプログラム内容だったので、ライラ研修会とはどういうものなのか興味が湧いていました。そんな中、研修の初日会場に行ったところ新潟県と群馬県から三百人くらい大勢の方達が集まっているでありませんか。これから三日間まったく知らない人達と生活すること、多少不安になっていました。一日目は、静の日ということで主に講演会が行われ私は横山先生の「南極観測と地球環境」を聞かせて頂きました。マイナス60° 冬の間は一ヶ月くらい太陽が出てこない極寒の地での生活や体験と南極大陸の観測内容を話してくれました。中でも現地へ持って行く食料や物資の量と帰って来る時持ち帰るゴミが同じ量だと聞き、環境を汚さない様な気配りが徹底されているのに関心させられました。あんまり人がいないからとか、人が見ていないからいいのではないかという考えが地球を汚染していくという事を今